

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年6月5日現在

機関番号：37102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K01664

研究課題名(和文) 大学生の社会的スキルに及ぼすスポーツ活動の効果-メタ分析及び大規模調査-

研究課題名(英文) Effects of sports activities on social skills of university students-meta-analysis and large-scale survey-

研究代表者

磯貝 浩久 (ISOGAI, Hirohisa)

九州産業大学・人間科学部・教授

研究者番号：70223055

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、大学生の社会的スキルの及ぼすスポーツ活動の効果について、メタ分析、大規模調査などから明らかにすることであった。メタ分析の結果から、スポーツ活動は社会的スキルを高めることが明らかになった。横断的調査及び縦断的調査から、指導者やチームメイトが社会的スキルの獲得を促進することが示された。質的研究では、スポーツを通して社会的スキルを獲得できた理由が明らかにされた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

社会的スキル効果に及ぼすスポーツ活動の効果に関して、メタ分析からスポーツ活動が社会的スキルを高めることを明らかにしたことには、学術的意義があると考えられる。また、大規模な横断調査から指導者、チームメイト、スポーツの活動の体験内容が社会的スキルの獲得を促進させることが示され、縦断的調査からそのプロセスが明らかにされた。さらに、質的研究により社会的スキルを獲得した理由を明らかにした。これらの研究成果は、スポーツ活動の有用性を示すうえで重要であり、社会的意義が認められる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to clarify the effects of sports activities given by social skills of university students through meta-analysis and large-scale surveys. The results of the meta-analysis show that sport activities enhance social skills. Cross-sectional and longitudinal surveys have shown that leaders and teammates promote the acquisition of social skills. Qualitative research revealed why social skills were acquired through sports.

研究分野：スポーツ心理学

キーワード：メタ分析 社会的スキル スポーツ活動 大学生 ライフスキル 大規模調査

1. 研究開始当初の背景

大学教育の共通の目標は 21 世紀型市民の育成とされ、キー・コンピテンシーを身につけることに主眼がおかれている(文部科学省, 2008)。キー・コンピテンシーは、個人の成功と正常に機能するために必要な鍵となるスキルと捉えられ、異質な集団で活動する力、自律的に活動する力、資源を相互的に活用する力、思慮深い思考と行為等がその内容として挙げられている。

キー・コンピテンシーは近年使われ始めた新しい概念であるが、これらに含まれるスキルの内容は、社会的スキルとみなされ、スポーツ活動との関係が古くから検討されている。社会的スキルは、他者との関係や相互作用を巧みにこなうために練習して身につけた技能と定義される。具体的な内容として、コミュニケーションスキル、感情処理スキル、ストレス対処スキル、集団行動スキル、援助スキルなどがあげられる(磯貝, 2014)。

大学における様々なスポーツ活動(体育授業、部活動、サークル活動等)の継続が社会的スキルの獲得に多大な影響を及ぼしていると考えられる。そのことを実証的に、また包括的に検討していくことは、スポーツ活動の有用性を示す意味で重要な意義を持つといえる。従来の研究を概観すると、社会的スキルに及ぼすスポーツ活動の影響に関する研究は蓄積されてきているものの、評価する社会的スキルの側面や評価方法などが研究毎に異なっていたり、特定のスポーツ活動だけを対象にしていたりするため、説得力を持つ一般化できる有用な知見は得られていないといえる。

2. 研究の目的

本研究は、大学生の社会的スキルに及ぼすスポーツ活動の効果に関して次の視点から明らかにすることを目的とする。(1)従来の研究成果に対してメタ分析(meta-analysis)を行ない、どのようなスポーツ活動が、どのような社会的スキルの側面に、どの程度影響しているのかを検討する。(2)その結果を基に、大学生を対象に大規模な横断調査を行い、社会的スキル獲得にはどのような要因が影響するのか、その要因はスポーツ活動によって相違するのかを検討し、(3)縦断的研究により社会的スキルの獲得のプロセスについて明らかにする。さらに、(4)スポーツ活動を通して社会的スキルを獲得した者を対象とした質的研究と、(5)研究で得られた知見を基にした介入研究を実施し詳細を検討する。

3. 研究の方法

(1) メタ分析

これまで行われてきたスポーツ活動の社会的スキルへの影響に関する国内外の全ての研究をシステマティックに収集し、メタ分析によってスポーツ活動の影響の程度などを検討する。

(2) 大規模調査

5,000 名程度の大学生を対象とした大規模な横断的研究を行い、マルチレベル分析などを用いて関連要因及びスポーツ活動毎の影響の相違を明らかにする。

(3) 縦断調査

500 名程度の多様なスポーツ実施者を対象に 1 年間の縦断的研究を行い、社会的スキルの獲得過程及び促進要因の因果を検討する。

(4) 介入研究・質的研究

メタ分析、横断調査、縦断調査の結果を踏まえて、介入研究を行う。また社会的スキル獲得が顕著だった学生に対してインタビューを実施して質的に検討する。

4. 研究成果

(1) メタ分析

メタ分析の6つの手順に従って分析を行った。文献検索では、「スポーツ活動」「部活動」「体育授業」「社会的スキル」「コミュニケーションスキル」「ライフスキル」等を主なキーワードとして、数百の研究論文を収集した。メタ分析により、スポーツ活動は社会的スキルに影響すること、またスポーツ活動のタイプで影響の程度が相違することが明らかになった。また、様々な社会的スキルのなかで特に、ライフスキル、ストレス対処スキルに影響することが示された。

(2) 大規模調査

調査対象は、スポーツ活動実践者(大学公認運動部、スポーツ関連サークル、体育授業受講者)とスポーツ活動非実施者であり、5000名弱の大学生であった。社会的スキルの関しては、日常生活スキル尺度、KISS-18、ストレスコーピング尺度、運動部活動経験尺度を使用した。促進要因として、指導者要因、チームメイト要因、活動経験要因を評価した。主な結果としては、指導者やチームメイトが社会的スキルの獲得を促進することが示され、特にスポーツ経験の内容が大きな影響を及ぼすことが明らかとなった。また、促進要因の影響の仕方は、スポーツ活動のタイプにより異なる可能性が示された。

(3) 縦断的調査

調査対象・時期：対象はスポーツ活動実施者(a)大学公認の運動部所属者、b)スポーツサークル活動実施者、c)体育授業受講者)であった。対象者数は、400名弱である。調査は春期、夏期、秋期の時期で、調査を3回行った。

調査内容：社会的スキルの評価及び、スキル獲得の促進要因の評価を行った。具体的には、人口統計学的特徴(年齢、性別、学年等)、日常生活スキル尺度、KISS-18、適応感尺度、運動部活動経験尺度などの心理尺度、チームの特徴(雰囲気、魅力、対人関係等)、活動実態(練習時間、場所等)などの内容で構成された。

結果：社会的スキルがどのように変容したかに関して、集団レベルでの変化と個人レベルでの変化及び両者の関係を検討した。その結果、社会的スキルの獲得には、運動形態(運動部、サークル)の影響は少なく、活動の中でどのような経験をするかといった経験内容が大きく影響している可能性が示唆された。

(4) 質的研究及び介入研究

質的研究：

対象は社会的スキルの獲得が著しい者と、獲得のみられなかった者とした。インタビューでは「スポーツ活動を通して社会的スキルが、なぜ、どのように獲得されたと思うか」について質問した。グランテッドセオリーなど用い質的に分析して、スポーツを通して社会的スキルを獲得した理由、または社会的スキルを獲得できなかった理由が明らかにされた。

介入研究

介入対象と期間：介入は体育会運動部(テニス部、スキー部)で行った。介入期間は3ヶ月であった。介入内容：社会的スキルの獲得を促進する要因を操作した介入プログラムを、テニス部、

スキー部の実情にあわせて作成した。介入プログラムを実施して、社会的スキルの獲得過程や獲得の程度を明らかにした。

以上3年間の研究を通して、大学生の社会的スキルに及ぼすスポーツ活動の効果に関して、多くの知見を得ることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 2 件)

- 1) 野崎真代、高橋正則、磯貝浩久、思春期の継続的なスポーツ活動経験が大学生の社会的スキルに及ぼす影響、桜門体育学研究、査読有、53巻、2018
- 2) 高橋正則、難波皓平、猪俣克、磯貝浩久、大学テニス選手のコミュニケーションスキル向上を目指した介入プログラムの効果、総合文化研究、査読有、89巻1号、2019

〔学会発表〕(計 3 件)

- 1) Masayo Nozaki, Fumio Mizuochi, Hirohisa Isogai; The Influence of Continued Sport Activity Experience on the Social Skills of University Students, Annual Conference of Association for Applied Sport Psychology, 査読有, 2018
- 2) 野崎真代、磯貝浩久、水落文夫、高橋正則、スポーツ活動が大学生の社会的スキルに及ぼす影響、日本体育学会第69回大会、2018
- 3) サイリョウ、磯貝浩久、大学生におけるライフスキル及ぼすスポーツ活動の影響、九州スポーツ心理学会第30回大会、2018

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：渋谷 崇行

ローマ字氏名：SHIBUKURA, Takayuki

所属研究機関名：桐蔭横浜大学

部局名：スポーツ科学研究科

職名：教授

研究者番号(8桁): 30288253

(2)研究分担者

研究分担者氏名：水落 文夫

ローマ字氏名：MIZUOCHI, Fumio

所属研究機関名：日本大学

部局名：文理学部

職名：教授

研究者番号（8桁）：30157482

(3)研究分担者

研究分担者氏名：高橋 正則

ローマ字氏名：TAKAHASHI, Masanori

所属研究機関名：日本大学

部局名：文理学部

職名：教授

研究者番号（8桁）：10297757

(4)研究分担者

研究分担者氏名：鈴木 典

ローマ字氏名：SUZUKI, Tsukasa

所属研究機関名：日本大学

部局名：スポーツ科学部

職名：教授

研究者番号（8桁）：10162968

(5)研究分担者

研究分担者氏名：野口 智博

ローマ字氏名：NOGUCHI, Tomohiro

所属研究機関名：日本大学

部局名：文理学部

職名：教授

研究者番号（8桁）：30349948

(6)研究分担者

研究分担者氏名：水上 博司

ローマ字氏名：MIZUKAMI, Hiroshi

所属研究機関名：日本大学

部局名：文理学部

職名：教授

研究者番号（8桁）：90242924

(7)研究分担者

研究分担者氏名：佐藤 佑介

ローマ字氏名：SATO, Yuusuke

所属研究機関名：日本大学

部局名：商学部

職名：准教授

研究者番号（8桁）：00559536

(8)研究分担者

研究分担者氏名：橋口 泰一

ローマ字氏名：HASHIGUCHI, Yasukazu

所属研究機関名：日本大学

部局名：松戸歯学部

職名：准教授

研究者番号（8桁）：90434068

(9)研究分担者

研究分担者氏名：近藤 克之

ローマ字氏名：KONDOU, Katsuyuki

所属研究機関名：日本大学

部局名：スポーツ科学部

職名：講師

研究者番号（8桁）：10459943

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。